

なごや生物多様性センター主催 第1弾シンポジウム

どう向き合う？●外来生物

— なごやの自然の未来を考える —

平成24年 **3月10日土** (午後1時開場) **午後1時30分～4時**

会場 名古屋市科学館サイエンスホール **定員** 300名 **入場** 無料 (ただし、プラネタリウム・展示室をご利用の場合は所定の料金が必要です)

大都市なごやにも、個性豊かな野生生物たちが繋がり合って生きています。
しかし、今、在来生物を脅かす外来生物が大きな問題になっています。
外来生物の防除に取り組んでいる市民の活動などを紹介し、皆さんとなごやの生物多様性を考えます。

基調講演

40分



「なぜ外来生物は増え続けるのか？ ～愛知ターゲットと外来生物防除～」

五箇公一さん (国立環境研究所 主席研究員)



「愛知ターゲット」とは…2050年までに「自然と共生」する世界を実現するための戦略目標。生物多様性の損失を止めるため、2020年までに達成すべき20の個別目標を掲げています。2010年10月に名古屋市で開催されたCOP10 (生物多様性条約第10回締約国会議) で採択されました。



事例報告

15分

「都市部における外来生物防除の取組み」 野呂達哉 (なごや生物多様性センター市民協働推進員)
金城学院大学非常勤講師
— 15分休憩 —

パネルディスカッション

1時間10分

「なごやの生物多様性保全に向けて —市民は何ができるか—」

パネラー 大畑孝二さん (日本野鳥の会チーフレンジャー)
佐久間大輔さん (大阪市立自然史博物館主任学芸員)
滝川正子さん (なごや生物多様性保全活動協議会会長)
谷口義則さん (名城大学准教授)

コメンテーター 五箇公一さん
コーディネーター 矢部隆 (なごや生物多様性センター長・愛知学泉大学教授)

申し込み方法

電子メール、はがき、ファックスにて、①行事名「外来生物シンポ」、②お名前(複数の場合は、全員のお名前)、③郵便番号・住所、④電話番号(あればFAX番号)を明記の上、お申し込みください。

問い合わせ
申し込み先

名古屋市環境局「なごや生物多様性センター」

〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
TEL: 052-831-8104 FAX: 052-839-1695
電子メールアドレス bdnagoya@kankyokyo.city.nagoya.lg.jp

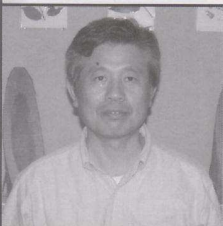
締め切り 平成24年 **2月21日(火) 必着**

※2月下旬に、なごや生物多様性センターから「参加票」をお送りします。定員を超えた場合は抽選とし、落選の場合もお知らせします。

●プロフィール

五箇 公一さん ごかこういち (国立環境研究所 主席研究員)

1965年、富山県生まれ。
1990年3月京都大学大学院農学研究科昆虫学専攻修士課程修了、4月卒業後、民間会社農業研究部に勤務し、主に殺虫剤・殺ダニ剤の開発に従事。1996年3月京都大学博士論文(農学)取得。1996年12月国立環境研究所入所、現職に至る。
環境省や農林水産省の審議会委員や、名古屋大学、岐阜大学、東京大学はじめ多くの大学の非常勤講師を務める。
「クワガタムシが語る生物多様性」はじめ精力的に著書・学術論文を発表するとともに、テレビ出演、新聞報道などマスメディアを通じての普及啓発活動にも力を入れている。



大畑 孝二さん おおはたこうじ (日本野鳥の会チーフレンジャー・豊田市自然観察の森所長)

1959年、岐阜県瑞浪市生まれ。
公益財団法人日本野鳥の会東京事務所を皮切りに、ウトナイ湖サンクチュアリ、加賀市鴨池観察館のレンジャーを経て、2003年4月から豊田市自然観察の森に勤務。
ウトナイ湖では千歳川放水路計画等開発問題への対応を、鴨池では水田農業とカモ類の共存の模索を、豊田ではサシバの調査・保全活動、矢並湿地他のラムサール条約登録への活動とともに指定管理者として自然観察の森の管理運営に関わる。
また、「ウトナイ湖サンクチュアリ物語」「これがカモ!カモなんでも凶鑑」などの著書がある。

佐久間 大輔さん さくまだいすけ (大阪市立自然史博物館主任学芸員)

神奈川県横須賀市生まれ。
外生菌根共生や菌類の生物多様性研究などの菌類学から里山の生息地構造まで大小様々な分野に取り組んでいる。
これらのテーマに関することを、住民と協働して保全するために自然系博物館が担う役割を考察し、発表している。主な著書は、考えるキノコー摩訶不思議ワールド、里と林の環境史(共著)など



滝川 正子さん たきがわまさこ (なごや生物多様性保全活動協議会会長・なごや生物多様性センターアドバイザー)

愛知県生まれ。元愛知県立高等学校の生物教師。
なごや平和公園自然観察会代表、平和公園愛護会会長を経て、2004年より、緑のパートナー「なごや東山の森づくりの会」会長を務める。なごや森づくりパートナーシップ連絡会会長(2003年~2009年)、東山動植物園再生検討委員会委員(2005年~2006年)、名古屋市緑の審議会委員(2005年~2009年)を務める等、東山の森を中心にしながら、幅広くなごやの生物多様性保全に携わる。2011年まで代表を務めた「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の活動は、今年度、「なごや生物多様性保全活動協議会」設置に至る大きな原動力となった。

谷口 義則さん たにぐちよしのり (名城大学理工学部環境創造学科准教授)

三重県生まれ。
大学院生の頃からアメリカ・ロッキー山脈や北海道の溪流でイワナの生態を研究し、現在も毎年北海道・知床半島のオショロコマの棲む溪流に通う。愛知では、都市河川の魚類群集保全、トラックバスの駆除による溜め池生態系の復元、水田ネットワーク再構築による希少魚類の保全等の研究に取り組む。著・訳書に「外来種ハンドブック(2002)」、「野生動物保護の事典(2010)」、「生態系サービスという挑戦(2010)」ほか。山口県立大学助教授を経て現職。日本魚類学会幹事、同学会自然保護委員会委員。博士(地球環境科学)。



矢部 隆 やべたかし (なごや生物多様性センター長・愛知学泉大学教授)

1963年、岡山県生まれ。
1986年名古屋大学理学部生物学科卒業、1992年東京都立大学大学院理学研究科生物学専攻博士課程単位取得後満期退学、1993年博士号取得(理学、東京都立大学)、1998年愛知学泉大学現代コミュニケーション政策学部助教授就任。現在、同大マネジメント学部教授。日本爬虫類両棲類学会などに所属。2011年5月から名古屋市環境局生物多様性推進参与、同9月2日に「なごや生物多様性センター」設立とともに、センター長就任。カメ博士として多くの人から親しまれ、したわれている。

野呂 達哉 のろたつや (なごや生物多様性センター市民協働推進員・金城学院大学非常勤講師)

1968年東京都生まれ。
専門は小型哺乳類の生態的分布と種間関係に関する研究。
現在、名古屋市を中心に生物多様性の保全活動に従事。市民や学生達と一緒に地域の生き物調査を行っている。平成21年4月より名古屋市環境局生物多様性市民協働推進員、平成23年4月より金城学院大学非常勤講師となる。その他、名古屋コミュニケーションアート専門学校、至学館大学の非常勤講師を務める。日本哺乳類学会会員、日本カメ自然誌研究会研究員。



「なごや生物多様性センター」

なごやの身近な自然を、市民の皆さんと一緒に守りはぐくむ活動や調査を行い、なごやの生きものに関する情報を次世代に継承するために、平成23年9月2日に設立しました。

「なごや生物多様性保全活動協議会」

なごやに生息・生育する生きものや生息環境を調査し、生物多様性の現状を把握し、身近な自然を守る活動をしています。

●会場：名古屋市科学館サイエンスホール
中区栄二丁目17番1号(白川公園内)



【アクセス】

- ・地下鉄「伏見」
- ・市バス「広小路本町」「広小路伏見」
- ・名鉄バス「伏見町」「白川公園前」

ご来場は公共交通機関でお越しください。

主催：名古屋市環境局「なごや生物多様性センター」

共催：名古屋市科学館、なごや生物多様性保全活動協議会
協力：なごや環境大学実行委員会

*このチラシは古紙/リブを含む再生紙を使用しています。